

県北 どらくろ本

第12号 2017年3月1日（毎月1日発行）

県北群星伝⑨ 野鳥の親善大使

うるしだにこうめい

漆谷光名 63歳（三次西酒屋町）



「Hello Birds」は、平成二十七年七月に刊行された。「江の川流域の野鳥観察記録集」というサブタイトルがついている。漆谷光名さんが二十五歳の歳月を費やした記録の集大成である。著者の細やかな配慮がすみずみまで満ちている。

三次市のシンボルバードであるセグロセキレイの頁を開いてみようか。「留鳥」（りゅうちょう）という文字が目に入る。一年中、一定の地域で生活する鳥のことだ。「屋根の上にとまって鳴くとその家が

ドが紹介されている。単なる図鑑ではなく、さりげなく挿入された蘊蓄や逸話が楽しい。鳥に関する用語の説明や、野鳥観察記録一覧（一年間を三十六分割して観察した個体を記録）、野鳥のQ&A、江の川流域の野鳥観察スポットの地図、そして、漆谷さんが撮影した百五十七種、百六十コマの野鳥の画像が入っているCDが付録。

「鳥は何種類ぐらいいるのですか？」

Q&Aでの質問。アンサーは、世界でおよそ九千種類、日本で確認されているのは約六百五十種、広島県内では二百九十二種、江の川流域では二百四十四種が確認されている。

読者対象は初心者だが、野鳥観察記録一覧の詳細なデータ等は、専門家からも高く評価されている。

漆谷さんが野鳥観察を始めたのは三十六歳のとき。中学校の理科の教師として教壇に立っていたが、教師としての自信を失いかけていたところだった。故・小川光昭先生が講師の探鳥会に参加。何か一つでも専門分野を見つけてこ

とで、教師として、いや一人の社会人としての自信を取り戻したいと渴望していた。「今日は鳴いてくれませんか、諦めてその場を立ち去る寸前だった。「チョットコイ、チョットコイ……」、けたたましい鳴き声が聞こえてきた。コジュケイというキジの仲間の鳴き声だ。劇的なタイミングだったが、講師の地道な観察の積み重ねが、偶然を必然に変えたのだ。バードウォッチングに魅せられた瞬間だった。

漆谷さんはさっそく双眼鏡と野鳥図鑑を購入。しかし、どこに行けば野鳥に出会えるのかまったくわからずに、闇雲に車を走らせていた。双眼鏡で観た鳥を図鑑で調べても、幼鳥や成鳥、性別などの個体差もあって、種類を確認できないこともあった。「Hello Birds」には、こんな本があったらもっと楽しく野鳥の観察ができたのという著者の願望が込められているのかもしれない。

「これからは、鳥たちに恩返しをしたいと思っています」

日本鳥類保護連盟専門委員として、給餌台や巣箱の設置など、野鳥の保護に力を入れ

ている。

過去二十五年間のデータを考察すると、数を増やしている鳥もいるが、全体としては減少している種類の方が圧倒的に多いのだという。多種多様な里山の環境が単純化しつつある証左で、野鳥だけではなく、自分たち人間の生存にも影響してくるかもしれないと、漆谷さんは危機感を抱いている。

野鳥が好きになることで、自然や環境に関心を持つ人が増えてほしい。バードウォッチングの公開講座や、野鳥の観察会を月二回のペースで開催するなど、野鳥の魅力を積極的に発信している。

観察スポットの尾関山公園（三次町）には、三次商工会議所の支援を得て、野鳥観察のガイドパネルが設置されている。今観ることができ野鳥の写真を解説付きで掲示。写真はマグネットシートになっていて、季節ごとに貼り替えられる。尾関山だけで、年間約七十種類もの野鳥が観察できるといふ。

「あつ、キジが来た」

その一言で、取材はしばし中断。餌台を設けている自宅の庭には、さまざまな野鳥が飛来する。まるで親友の来訪を喜ぶように、漆谷さんの瞳が輝いている。「ハロー、キジさん」、心の中のつぶやきが聞こえたような気がした。

図書館員ノート⑦

「きっかけは、〇〇」

我が家には、昔の小さな本棚に本ならぬ和布が、幾重にも色を見せ取まっていた。亡き母が集めた物だ。

図書館では、年に何度か気楽に参加できる色々な教室を開いている。二月に開催する和布小物作りに向

けて、和布を集め、大きな風呂敷包みの準備を始める。この風呂敷包みは、今回で六度目の出番だ。

「本を見ても一人じゃなかなか……」

という声に応え、
「図書館デビューに友だち作り、みんなで楽しんでみませんか？」

と第一回「きっかけは図書館講座」を開催したのは、八年前にもなるうか。

図書館は何だか敷居が高いな、私は本は読まないし……、といった図書館は初めての方が集まった。

二年前には、一冊の本『お気に入りのはぎれで作る布絵手紙』（河出書房新社）の紹介で、教室を開催した。それから私と風呂敷包みはセットになった。初雪の作木図書館へ、青空の綺麗な日、のどかな布野図書館へと出向いた。

風呂敷包みを解くと「わあ、懐かしい布」と声上がる。母の布

が後押ししてくれているように会が進んだ。

一冊の本は、地域のサロンで紹介され、集まりの中で作品ができていった布たちは、多くの人に出会い、喜びの声を聞く事になったのだ。

図書館の中に眠る何万冊という本。いつか手に取られ、開かれる時を待っているように思えて、愛おしさを感じる。今日は、どの本を展示コーナーへ置こうか。貸出されたら「うふっ！」と心の中で喜ぶ。本と人をつなげた喜びだ。

この小さな「きっかけ」が人や地域の「つながり」へと発展する事を願って、小さな町の図書館から、これからもきっかけを発信していこう。

文章を書くのは大の苦手、次の原稿を指名された時、会議中にも拘らず悲鳴を上げてしまった私。

何かをきっかけに……。手元の鉛筆を見る。「それだけはないわ」と一人笑った。



『石川啄木名作集』

偶然に見える本との出会い

本の好きな人には、本が好きになるきっかけとしての本との出会いがあるのではないのでしょうか。私にとっては小学6年生の時、小遣いをためて買った『石川啄木名作集』がそれです。

とって最初は本の内容より、「少年少女日本文学選集」と銘打たれた箱入りの美しい装幀に惹かれたように思います。薄茶色の地にクリーム色の模様があり、黒い文字が浮き出ていました。本立てに置くと、そこだけが光っていて、つい手に取ったものでした。

ページをめくると短歌と詩、小説が入っていました。短歌を暗誦するようになったのはこの時からです。

東海の小島のいその白砂に
われ泣きぬれて
かにとたわむる

たわむれに母を背負いて
そのあまり軽きに泣きて
三歩あゆまず

今思えば、初めて接した短歌が啄木の歌でよかったと思います。啄木の短歌は平仮名が多くて読み易く、

これから中学生になるんだ、大人に近づくのだからという気分と、ぴったり重なりました。これらはどれも最初の歌集『一握（いちあく）の砂』に収められていた歌でした。

詩は、「はてしなき議論の後」という題名で書かれていて、「見よ、われ

また読んでみたい本⑫

少年少女たちへ

音谷 健郎



【石川啄木】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介していきます。

第12回目は『石川啄木名作集』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

あわせて歌っていること知り、啄木への思いが募りました。

小説の「雲は天才である」に対する印象は、ぼんやりしています。小学生の私には、難しい言葉がたくさん出てきて、読みづらかったのだと思います。惜しいことでした。

しばらく啄木のとりこになった後は、「夏目漱石」「山本有三」「志賀直哉」などの作家の名作集へと進んでいきました。物置を探すと6冊の名作集がでてきました。前回のこの欄でふれた国木田独歩「非凡なる凡人」は、この名作シリーズで読んだものでした。その他にも強く心に残っている作品は、この名作集で読んだものだったことを改めて知りました。

今思えば、啄木との出会いは、特に強い理由はありません。偶然のようにも思えます。ただ、夢中になったのをきっかけに、次々と関心が広がったのでした。ほかの作家と出会っても似たような結果になったと思います。少年のころの多感な時に触れる読書の時間は、値千金だと痛感しました。

次回からは、「青年たちへ」との副題で、青年になって感銘を受けた名作を紹介します。

貧しい暮らしのなかで志を持ち、他人にも思いをめぐらす気持ちが伝わってくるように思えたのです。

その頃の私の気持ちを特に引きつけたのは、「不来方（こずかた）のお城のあとの草に寝て 空に吸われし十五のころ」という短歌でした。

「安藤さん……、ですか」

百郎さんの傍らに蹲っている黒猫に視線をやった。

「ユニークな名前ですね」

苦笑を浮かべてそう言った。

「彼がね、自分でそう名乗ったのだから仕方ありません」

黒猫が大きなあくびをした。でかい顔に、鋭い牙が剥き出しになる。左目がつぶれているので、余計に迫力がある。

「子供の頃からの古い友人です」

百郎さんの年齢は六十代の半ばだろうか。するとこの猫の年齢は……、百郎さんの悪戯っぽい目を見てかぶりを振った。真に受けてはいけない。百郎さんの言うことは嘘八百、相手の反応を見て楽しんでいる。

「わたしはプロの雀士だったんです。若い頃は鉄火場で命を削るような勝負をしたものです。それが、今じゃ落ちぶれて、煙草の万引きでつかまらようになっていたらく。留置場で大学生と知り合ったのですが……」

これは先週、百郎さんがしていた身の上話だ。

「ひよつこのくせに、鼻っ柱が強くて、いい度胸をしているので、あちこちの博打場に連れて行ったのですが、最後はマカオのカジノに乗り込

みまして……」

話が終わるとわたしは立ち上がって、文庫本の棚から「新麻雀放浪記」を取り出した。雀聖と呼ばれた阿佐

田哲也の麻雀小説である。百郎さんはその主人公、坊や哲の物語を語って、いや、騙っていたのである。

百郎さんは半年ほど前から、週に一度のペースで来訪するようになって、

こうしたやり取りが何回かあって、

ゲームのルールを了解した。百郎さんは、店の棚に並んでいる古本の中から一冊を選んで、その主人公になりきって身の上話をする。その本を見つけたらわたしの勝ち、わからなければ百郎さんの勝ち。いずれにしても、その本を含めて本をたくさん買ってくれるので、上得意客だった。

こうしてやり取りが何回かあって、ゲームのルールを了解した。百郎さんは、店の棚に並んでいる古本の中から一冊を選んで、その主人公になりきって身の上話をする。その本を見つけたらわたしの勝ち、わからなければ百郎さんの勝ち。いずれにしても、その本を含めて本をたくさん買ってくれるので、上得意客だった。

「キヤッツ・アイ」 亜木冬彦

あきふゆひこ

現代御伽草子⑪

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

た。小柄で痩身だが、ひと昔前の時代劇役者のような彫りの深い顔をしている。

最初に顔を見せたときは、自分は香水の調香師だと名乗った。数奇な身の上話を淡々と語ったあとで、一冊の本を差し出した。パトリック・ジュースキントの「香水―ある人殺しの物語」だった。

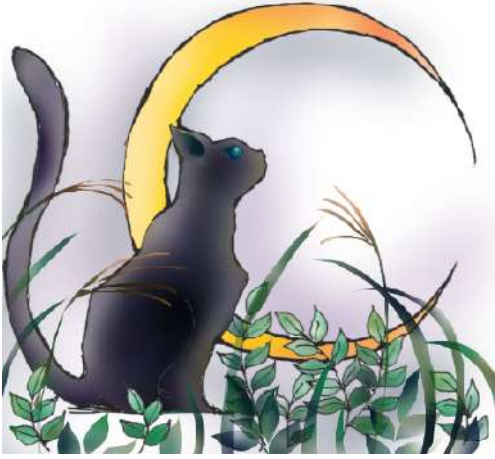
「実は、わたしは大泥棒なのです。宝石専門の泥棒でして、世界を股にかけて有名な宝石を盗んだものです。でも犯罪歴はまったくありません。それはね、違法に手に入れた宝石ばかりを狙ったので、盗まれても警察に届けることができないのですよ……」

頭の中を、さまざまな小説のタイトルがよぎっていた。ありがちな設定だが、これといった題名を特定することはできなかった。荒唐無稽なので、漫画かとも考えた。「……一つだけ、どうしても手放せない宝石があるんです。コンゴで発掘されたダイヤモンドでムーン・ドロップ、月光の雫と呼ばれています」ギブアップだ。両手を上げたわたしを見て、百郎さんが椅子から腰を上げた。黒猫が立ちあがって、前足を大きく踏み出してノビをする。

いつもであれば、百郎さんが棚から正解の本を持って来て、会計をすませるはずだった。わたしが未読であれば、「おもしろい本ですよ」と言ってプレゼントしてくれる。しかし、今日ばかりは「それじゃあ」と会釈して、何も買わずに店の外に出てしまった。その後ろ姿が、なんだかひどく寂しそうで、儂いものに見えた。

百郎さんの背中を追って路上に出た。呼び止めようとしたが、声が出ない。名前を知らなかった。来るたびに違う人物を演じるので、わたしが勝手に百郎さんと心の中で呼んでいたのである。

黒猫が軽やかな足取りで、寄り添うように歩いている。三月も半ばを



過ぎていくのに、雪が舞っていた。

息苦しさを覚えて目が醒めた。閃光に瞳を射られて瞼を閉じた。悲鳴を上げようにも、何かで口が覆われている。

「本が好きなのか」

しわがれた声だった。

「頷くか首を振るかで答える」

わたしはあわてて頷いた。懐中電灯だろうか。手袋をした大きな手で、口を押えられている。

「本が読めなくなったら悲しいよな。せっかく本に囲まれていたのによ」

口を塞いでいる手が蠢いて、指先

が両目の窪みをまさぐった。ラバーのゴムの臭いが鼻孔に侵入した。目を閉じた瞼の上から、ぐりぐりと指が侵入してくる。首を振って逃れようとしたが、顔をつかんでいる手の握力が強烈で、びくともしない。

「矢島を知っているよな」

わたしは頷いた。百郎さんのことだ。風間で、百郎さんが隣の病院で死んだことを知った。肝硬変だったという。そのとき初めて、矢島という名前を知った。

「ムーン・ドロップ」

男の言葉に、百郎さんの話を思い出した。最後に店に来たときの話だ。

「知っているようだな」

声が笑っている。

「矢島が話したことを全部しゃべってもらおうか」

ゴムに覆われた指先がまた、ぐりぐりと眼球に押し付けられる。わたしはくぐもった悲鳴を上げながら、夢中で何度も頷いていた。

鏡で両目を確かめた。赤く充血しているが、傷はないようだ。こめかみの下や顎のあたりに、指で締め付けられた痛みがまだ残っている。ジャイアント馬場のライバルだったフリッツ・フォン・エリックの鉄の

爪、アイアンクローを思い出した。

「くそつたれが」

吐き出すように叫んで、そして笑った。

今頃、あの男は、百郎さんが住んでいた家の裏庭を、懸命に掘り返しているだろう。十年分の猫のトイレの砂が埋まっているはずだ。ただし、百郎さんの黒猫ではなくて、大家の家で飼っている三毛猫のトイレの砂なのだ。そのことは話していない。「猫のおしっこで、砂が団子のように固まるんです。中に何か入ってるんじゃないかと、つい割ってみたりします」

百郎さんの話を少しアレンジした。

戸締りを確認しておこうと、店の玄関に行った。ガラス戸の向こうに、小さな黒いシルエットが見えた。街路灯の明かりを背にして、片目だけが光彩を放っている。

「挨拶に来てくれたのか」

もう会えないような気がした。

(世話になったな)

黒猫の音が頭の中で聞えたのだ。しなやかに身を翻す寸前に、つぶれているはずの左目が眩く輝いた。闇に溶け込むように、安藤さんは姿を消した。

まちなか古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30～19:00
- TEL:090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

<広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円>



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「敵手」

ディック・フランシス 著 早川書房

旅行に持参する本には慎重になる。つまらない本を持って行くと、「お荷物」だ。安心して旅行鞆の中に入れてのが、ディック・フランシスの「競馬シリーズ」。競馬には興味のないわたしは、一冊で魅了された。

毎回、新しい主人公が登場する「競馬シリーズ」だが、「敵手」のシッド・ハレーは「大穴」「利腕」に続いて三度目の登場。障害競馬の騎手だったシッドは、レース中の事故で左手を負傷、探偵社の調査員となる。シッド・ハレーは最終巻の「再起」（息子のフェリックスと共作）にも登場、作者の愛着がうかがわれる。「競馬シリーズ」未読の方は幸いである。シリーズ全40冊分の至福の時間が約束されている。



「鹿野忠雄」

山崎柄根 著 平凡社

「台湾に魅せられたナチュラリスト」の副題。早熟な昆虫少年だった鹿野忠雄は、当時日本の植民地だった台湾の高校に進学。九州ほどの台湾島には3000メートル峰が200座以上連なり、最高峰の玉山（旧姓・新高山）は3952メートル。原住諸族は大正末期の当時、まだ首狩りの風習が残っていたという。その暗黒地帯を、高校生の鹿野は探求心の赴くままに駆け巡り、貴重な昆虫、動植物を採取する。



後年、鹿野は地理学者となり、台湾の生物地理学と自然地理学を発展させ、また民俗学者、前史学者として活躍するも、戦時中に赴任したボルネオ島で行方不明となる。まだ37歳。ロマン溢れる「快男児」の伝記。

「ランチのアッコちゃん」

柚木麻子 著 双葉社

NHKプレミアムでドラマの方を先に観た。小学生用の教材を専門とする小さな出版社の営業部派遣社員・澤田美智子が、自分の手作り弁当を、営業部長の黒川敦子（アッコちゃん）のランチと交換するという設定がユニーク。様々なランチを経験&体感することで、コンプレックスの塊だった美智子がおずおずと自分の世界を広げて行く姿が健気で微笑ましい。

この本は短編集で、2作目の「夜食のアッコちゃん」では、美智子とアッコちゃんの場合が激変。漫画のような大転換だが、それも含めて楽しめてしまうのは、アッコちゃんの魅力だろう。外見が和田アキ子似で、心身共にスケールがでかいのである。



どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どろろくろ俳壇

大津絵の涅槃図ねはんず文庫本の中

近藤 昌平

梅に風顔淵かんえんのごと吹かれたし

原博己

松過や齒科にて禁酒勧められ

片岡正人

ひめゆりの塔にやさしく春日降る

隆愚

爛酒を酌のめば涙も熱くなる

赤川冬人

投稿&寄稿

「涅槃図について」 近藤 昌平

「涅槃」は「消滅する」と云う意味があり、三月十五日釈迦入滅の日に行われる法会のこと。

「涅槃図」は「寝釈迦」を中心に悲嘆にくれる弟子や動物（得体の知れないものも）描かれています。

涅槃図の大きいものはお寺の本堂の天井から床に届く程のものがあります。その大きな絵が文庫本に収まっている不思議を匂にしました。

尾道の浄土寺などに素晴らしい涅槃図があります。

「病夢」 富久光

熱にうなされると

何でもない夢まで妙に

侘びしく思えてくる

誰も居ない一人の部屋で

履き古しの靴下を

幾重にも束ねて

膝に抱きかかえ

ぼろぼろ涙を流している

夢を見た

外は激しい吹雪で

小枝が折れんばかりに

しなっていた

今月のどろろさん



絵・風太

「かた目のねこ」 博士六郎

あいつは へやでひとり ないて
いる

さけを のむだけの 夜すこす

ペランダで ねこもにやーにやー

ないている

さけを のませろ！ とさわいで

る

おい そんなに メソメソと な

くんじやない

おれみたいに にやーにやー な

いてろよ

かた目の おれに 見えるのは

おまえの なきがおだけさ

おれは昔 まほうつかいと くら

してた

それは 楽しい 毎日だった

まほうつかいは ピアノが 大す

きで

ふたりで ブギウギ おどったも

のさ

はれた日は ほうきにのって 風

にのり

町を 見おろすのが すきだった

まほうつかいは いつも ないて

いた

おさけを のみながら

ある日 まほうつかいは とおく

へいった

「もう おまえとは くらせない」

おれは まよわず あくまに

かた目を 売ったんだ！

まほうつかいに あわせてよ

あいつは へやでひとり わらっ

てる

ピアノを ひくだけの 夜すこす

ペランダで ねこもにやーにやー

わらってる

またたびの さけをのんで お

どってる

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

どら書房委託販売コーナー
(各専用棚で好評販売中!)

★天馬書林

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

★サワちゃん文庫

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

陶芸 教室

洲澤陶芸教室（電動ロクロほか成形全般）

- ・ 県大前教室（0824-72-0686）月謝 2,000 円
金曜日（毎週）午後 1 時～ 4 時 30 分
 - ・ 敷信自治センター教室（0824-72-0571）月謝 1,000 円
木曜日（第二、第四）午後 1 時～ 4 時 30 分
 - ・ 庄原小学校前教室（0824-72-1074）月謝 1,000 円（月 2 回）
月曜日～水曜日（希望する日）午後 1 時～ 4 時 30 分
- ※詳しくはお電話ください。0824-72-1074（夜間を希望）
洲澤悦二（庄原市西本町 2-11-19）

《情報＆原稿を募集します!!》

- 仲間募集 ●教室＆講座案内
 - イベント情報 ●あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター（現地記者）募集！
- ※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、ダウンロードして楽しみいただけます。



● <http://shobara.wix.com/dorakuroa> ●

— 参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

みよし運動公園の屋内&屋外コートで、硬式テニスの例会を行っています。

- ・ 火曜日（10:00～12:00）
- ・ 水曜日（10:00～12:00）
- ・ 土曜日（12:00～14:00）

入会金、会費等は必要なく、コート利用料だけを当日の参加者で分割負担。現在、50人をこえる会員がいて、ご自分のペースでエンジョイされています。例会だけではなく定期的にMTECの大会や他の地域のテニスクラブとの交流会を開催。興味のある方は、一度、例会にご参加ください。見学も歓迎します。

連絡先：中川（☎080-5610-2376）

編集後記

◇大雪もひと段落。三寒四温の日が続いていますが、三月の声を聞くと、春の気配が色濃くなってきました。

◇今回の「現代御伽草子」は、我どら書房が舞台。以前から古本屋を舞台にした作品を書いてみたいと思っていたのですが、企画の趣旨には合わないと躊躇していました。今回は、作者の「我儘」を許してください（苦笑）。

◇「どらくろあ」も今回で十二号、昨年四月にスタートしてから一年間、毎月刊行したことになりました。月刊誌なのですが、まずは土台作りの一年が終了。二年目からは新企画も計画中で、さらなる紙面の充実を目指します。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail:touzin@sannet.ne.jp
年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

九日市だより

出店者の紹介をさせていただきます。買物&散策の参考にして下さい。
※最終頁の出店地図に掲載していない店は、今月はお休みです。

- ◆ **すけあくろう** コーヒー、親鶏の塩焼き、自宅は音楽スナック（庄原市一木町）
- ◆ **ギャラリー三村** 古物、骨董、雑貨（広島市）
- ◆ **昭助** 焼きそば、旬の野菜（庄原市市町）
- ◆ **とらぢ** キムチ、自宅は韓国料理（庄原市高町）
- ◆ **二八そば加工所** そばカリントウ、餅他（庄原市比和町）
- ◆ **手づくり工房アーミッシュ** シフォンケーキ、椎茸他（庄原市口和町）
- ◆ **佐藤食販** にぎりちくわ、野菜天他（福山市草戸町）
- ◆ **さだっさ** 旬の野菜、実留永山の醤油他（庄原市宮内町）
- ◆ **リトルマーメイド庄原店** 九日市サンド、パン他（庄原市中本町）
- ◆ **健康企画グループ** 東城の豆腐、寿司他（三次市甲奴町）
- ◆ **なぎんち** 押し花アート、野菜他（庄原市三日市町）
- ◆ **ハートワークカンパニー** 染物、アフリカ民芸布他（庄原市比和町）
- ◆ **郷屋** 木工品、まな板、盆他（尾道市因島土生町）
- ◆ **なかや** 古布の小物他（広島市） ◆ **くまさん** 衣類、雑貨他（三次市畠敷町）
- ◆ **工房アム** 創作額縁、アクリル絵他（広島市南区）
- ◆ **ちくちくハウス玉手箱** 布手芸品（庄原市川西町）
- ◆ **かぐや姫** 布手芸品（広島市安佐北区） ◆ **宮川屋** 餅、麴、惣菜他（庄原市口和町）
- ◆ **やまのおみやげや** 木工品、かずら細工他（庄原市宮内町）
- ◆ **ママドール** 手づくりドール、雑貨（三次市畠敷町）
- ◆ **ルームオブケイコ** トンボ玉、アクセサリー（庄原市口和町）
- ◆ **めだかの学校** 手芸品、野菜（三次市吉舎町）
- ◆ **花一** 盆栽、山野草他（岡山市北区） ◆ **砂田海産** 海産物、魚干物他（尾道市）
- ◆ **岡本繊維** 衣類、ブランド袋類、備後絣他（府中市）
- ◆ **アパレルゴトー** 日田焼き杉下駄（福山市新市町）
- ◆ **タツミ矢** 衣類（福山市駅家町） ◆ **開盛社** 姓名判断、印鑑、表札（呉市）
- ◆ **まなべ商事** タオル、肌着、靴下他（愛媛県今治市）
- ◆ **克国水産** 魚干物他（福山市鞆町） ◆ **TSUBAME** 靴各種（福山市）
- ◆ **よりんさいコーナー** 地域包括支援センター、血圧測定、健康相談、介護相談
（庄原市高齢福祉課、市内老人介護施設合同）
- ◆ **吉備路花田FF** 旬の果物（岡山県総社市） ◆ **山本水産** 魚干物他（島根県浜田市）
- ◆ **庄の助栄泉** 自然薯入り蒸し饅頭（庄原市板橋町）
- ◆ **くんえん工房香豚** 豚燻製他（世羅郡世羅町）
- ◆ **ハナビラタケ広島販売** ハナビラタケ、麴他（庄原市実留町）
- ◆ **阿波屋刃物** 刃物他（島根県仁多郡奥出雲町）
- ◆ **田崎屋** 骨董、雑貨（広島市南区） ◆ **前場衣料** 作業衣類他（府中市上下町）
- ◆ **佐藤園芸** 花、鉢物（岡山県都窪郡早島町）
- ◆ **久代はなみずき** 山菜おこわ、餅他（庄原市東城町）
- ◆ **お福** 着物、古布、小物他（広島市東区） ◆ **どんぐりーず** 焼き芋（庄原市東本町）

・「しょうばら九日市」ホームページ出店者紹介コーナーもご覧下さい。

・出店希望の方は、楽笑座内事務局へご連絡下さい。（0824-72-8285）

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)が、昭和年代の戦争で途絶えましたが、空き店舗を活用した市街地活性化ボランティア活動で、2001年に復活し存続しています。

第194回 しょうばら くんちいち 九日市

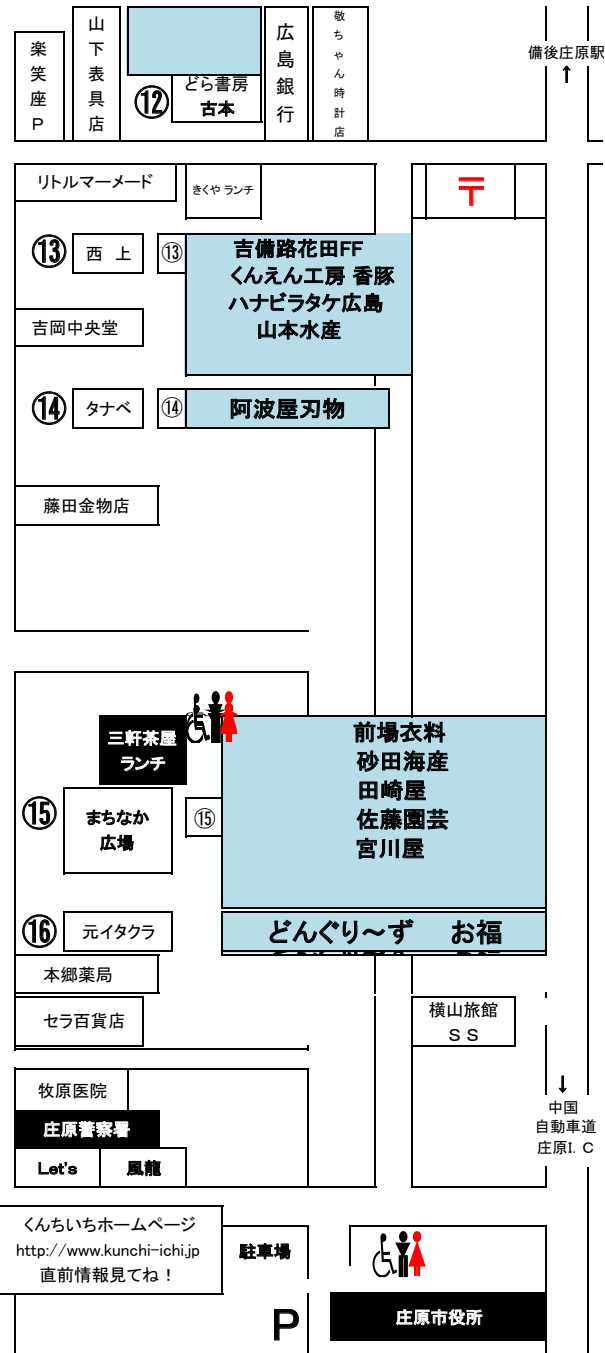
平成29年 3月9日 (木)
トピックス

9:00~13:00

★市民ギャラリー「アート多愛夢」では
三次人形展・庄原市文芸大会入賞作品展
日時 3月8日(水)~10(金) 10時~16時
★『三軒茶屋』(0824-72-2037)
ランチ(数限定)予約可

★コンビニ、レッツのすぐ近く(多田邸)で
(のぼりが目印)、キッチン・トイレ関連・家具・
家財等のフリーマーケット。早い者勝ち。
(株)庄原ハウジング090-7775-7283
★風龍……九日市スペシャル! 餃子200円!
★どら書房…営業時間 9:30~19:00
毎週 月曜日と火曜日はお休み

広島みどり信用金庫	マルエイ	まち屋café あさ井	シオ
楽笑座P			
		楽笑座 まかない食堂 11:00-12:30 うた喜慶茶 13:30-15:00	
克國水産	⑩	田邊酒店	⑩
まなべ商事	⑨	元かいち	⑨
ギャラリー アート多愛夢			
アパレルゴトー 岡本繊維	⑧	元タケムラ	⑧
	⑦	須澤 宅	⑦
Room of Keiko めだかの学校 マモンドール ゆまのちみゆげぬ	⑥	三上 宅	⑥
ちくちくはうす玉手箱 かぐや姫 工房アム	⑤	天野 宅	⑤
椰家 ハートワーク くわちゃん家	④	内海 宅	④
さだっさ リトルマーメイド 二八そば加工所 手作り工房アーミッシュ 健康企画グループ 佐藤食販 とらぢ	③	横山 宅	③
ギャラリー三村	②	宮田 宅	②
		キッチン北川	
すけあくろう	①	九日市 カフェ	①



当日の天候により、断り無く
出店者・出店場所は変更する場合があります。

出店申込みは、
【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース 1,000円~
九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座内
TEL / FAX (0824) 72-8285